

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 6月 5日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009～2011

課題番号：21520055

研究課題名（和文）

タイ国ワット・ラジャシッタラム寺院他所蔵写本に基づく蔵外仏典の研究

研究課題名（英文）

A Study of Non-Canonical Buddhist Literature Based on Manuscripts Preserved in Wat Ratchasittharam etc.

研究代表者

畷部 俊也 (TOSHIYA UNEBE)

名古屋大学・文学研究科・准教授

研究者番号：10362211

研究成果の概要（和文）：タイ国ワット・ラジャシッタラム寺院所蔵のパンニャーサ・ジャータカ写本の分析を行い、そのうちの3話について写本に基づいてテキストを作成し、和訳を行った。内容面についての研究成果は2011年6月に開かれた国際佛教学会で発表した。また、同寺院の仏伝を描いた壁画とタイの蔵外仏伝文学作品『パタマサンボーディ』を主たる比較資料として、オックスフォード大学ボードリアン図書館所蔵の装飾仏教写本の挿絵（仏伝部分）について研究した。この成果については同図書館より2013年春に同図書館より刊行される予定の書籍によって公表される。上のパンニャーサ・ジャータカのテキスト研究を含むそれ以外の研究成果は、研究成果報告冊子にまとめた。

研究成果の概要（英文）：

The followings are results of this project: Pāli texts and their Japanese translation of some of jātakas based on palm leaf manuscripts of the *Paññāsajātaka* preserved in Wat Ratchasittharam (Bangkok Yai, Thailand); An article on bodhisatta's declarations of self-sacrifice based on the textual studies of *Paññāsajātaka*; A chapter of a book on illustrations of a folding paper manuscript from Kingdom of Siam, which is preserved in the Bodleian library, Oxford University. In this study, the illustrations are compared with mural paintings of Thai temples such as Wat Ratchasittharam and descriptions in a non-canonical Pāli biography of the Buddha, *Paṭṭhamasambodhi*.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	1,100,000	330,000	1,430,000
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：仏教学

科研費の分科・細目：哲学・印度哲学・仏教学

キーワード：貝葉写本、仏伝壁画、『パンニャーサ・ジャータカ』、『パタマサンボーディ』、蔵外仏典、タイ仏教

1. 研究開始当初の背景

申請者は、平成17年度より3年にわたって研究代表者として「パーリ語およびタイ語写本による東南アジア撰述仏典の研究」と題する研究課題のもと、科学研究費補助金（基盤研究C 課題番号17520046）による研究

を行ってきた。このプロジェクトでは、具体的な成果として、東南アジアに広く分布するジャータカ物語集である『パンニャーサ・ジャータカ』のタイ所伝写本に所収の物語のうちの3話分に付き、写本の転写、校訂テキスト、翻訳を作成し、また、日本に存在するタ

イ仏教で非常に重要な役割を果たした『ブラ・マーライ』というテキストの紙折り挿絵入り写本6本について調査報告をまとめ、さらには『パタマサンボーディ』というタイ独自のパーリ語仏伝およびそれに基づく図像表現についての研究発表を行った。

以上のような研究は、日本における先行研究者並びにタイ在住のヨーロッパの研究者、タイ人研究者の協力を受け、活発な意見交換に基づいて行われたものであり、その成果は、内外で一定の評価を得ていた。

他方、ワット・ラジャシッダラム寺院の写本調査、文献調査は研究協力者清水洋平氏らによって進められてきていたが、その成果を利用して、写本の内容を具体的に検討することが求められていた。

2. 研究の目的

(1) タイ王国バンコクのトンブリ地区 (Bangkok Yai) のラジャシッダラム寺院を主たるフィールドとし、その寺院他の経蔵に所蔵されているコム (クメール) 文字貝葉写本等を資料として、上座仏教の正典としてのパーリ三蔵以外の、いわゆる蔵外仏典の研究を行うことが第一の目的である。特に同寺院に所蔵される写本の中には、従前より研究を進めてきた『パンニャーサ・ジャータカ』の写本が含まれていることが、これまでの先行諸プロジェクトによる予備的な調査から分かっており、まずこの写本を分析し、『パンニャーサ・ジャータカ』研究を進展させることが大きな目的の一つである。また、同寺院所蔵の蔵外のテキストのいくつかを研究調査対象として選別することも目的とする。

(2) 従前のプロジェクトを通して、蔵外仏典の研究は、タイの仏教文化全般と深く結びついていることが実感されている。特にワット・ラジャシッダラム寺院およびその周辺のトンブリ地区の諸寺院は、特にその布薩堂の美しい仏伝壁画が非常に有名であるため、その壁画等の美術表現を比較検討の材料として、タイの蔵外仏伝文学作品『パタマサンボーディ』の研究、また逆に『パタマサンボーディ』に基づく図像学的研究にも取り組むことも重要な課題とする。

3. 研究の方法

(1) ラジャシッダラム寺院等に所蔵のクメール文字貝葉写本を資料として蔵外仏典の研究を進める。特に『パンニャーサ・ジャータカ』写本に関しては、その存在自体は既に調査からわかっているので、まずは内容分析を進め、特に『パンニャーサ・ジャータカ』と呼ばれながらも、従前のプロジェクトで扱った39話よりなる集成と異なるものについて理解を深める。

『パンニャーサ・ジャータカ』に含まれる物語から、いくつかの物語を選定してローマ字転写を進め、校訂テキストを作成し、さらに和訳を作成する。

貝葉写本の所蔵情報や研究方法については随時ワークショップなどを開催し、また、現地での調査や現地研究者との意見交換会を持ち、内外の研究者との協力の上で研究を進める。

(2) 『パタマサンボーディ』という蔵外仏伝文学作品の読み込みと併せて、ワット・ラジャシッダラム寺院およびその周辺のトンブリ地区の諸寺院の壁画の表現を調査し、図像学的な研究を進める。また、他に仏伝を描いた写本等があれば、それに関する調査・研究を進める。

4. 研究成果

(1) 研究初年度である平成21年度は、10月19-20日にフランス極東学院のピーター・スキリング博士および、研究協力者清水洋平博士等を招き、貝葉写本研究に関するワークショップを開催した。ワット・ラジャシッダラム寺院での貝葉写本調査の実際を聞いた上で、研究方針に関して関係研究者と打ち合わせを行った。清水洋平氏の同寺院 (ならびにワット・マハタート寺院およびワット・アルン寺院) の貝葉写本調査には、研究代表者も実際に平成22年2月22日から3月5日にかけて参加し、多くの貴重な知見を得た。

このタイでの調査に引き続いて、同年3月17日から3月18日にかけて、明治期に将来されたスリランカ、タイの写本や仏像などを所蔵していることで知られる横浜三会寺において貴重な資料を調査した。

(2) 研究二年目の平成22年度には、まずワット・ラジャシッダラム寺院所蔵のパンニャーサ・ジャータカ写本 (いわゆる後半部写本) の分析を行った。この写本に関して7月に名古屋に滞在していたジャクリーン・フィリオザ極東学院名誉研究員の協力を得つつ、内容分析を行ったところ、もう一本の田辺和子博士将来本では欠落している部分がこの写本には現存しており、貴重な資料であることが判明した。

同年8月には、ワット・ラジャシッダラム寺院の壁画モチーフと、タイの仏伝『パタマサンボーディ』等の文献読解に基づく研究成果を、招聘を受けタイ国チュラロンコン大学主催の国際学会 *Buddhist Narrative in Asia and Beyond* にて“Two Popular Buddhist Images in Thailand”と題して研究発表した。この論文は、近く二冊本の大会として出版される学会 *Proceedings* に掲載される形で出版される。

この発表には大きな反応があったが、中で

も英国カーディフ大所属のブリティッシュ・アカデミー研究員のナオミ・アップルトンとは、これ以降共同研究を進めることとなった。特に、オックスフォード大学ボドリアン図書館所蔵の美しい仏伝挿絵を伴うタイの装飾写本 BODL MS. Pali a27(R) 写本に対する研究プロジェクトを直ちに立ち上げ、同年 12 月にはオックスフォードに渡って早速共同研究を開始した。以降の経緯と研究の内容・進捗状況に関しては、当該年度末に口頭発表した「越境する仏教写本：オックスフォード大学所蔵タイ装飾写本研究報告」（和田壽弘編『マンダラと論理のインド』2011: 61-76）にも触れている。なお、『仏頂尊勝陀羅尼経』に関連するパーリ語文献などの貴重な諸文献を含む同写本の内容そのものについても、本プロジェクトの一環として資料収集および読解を一部すでに進めている。

(3) 最終年度である平成 23 年度は、まずこれまで進めてきたパンニャーサ・ジャータカ研究の成果を、6 月に台湾の法鼓山で開催された The XVIth Congress of the International Association of Buddhist Studies にて研究発表した。パンニャーサ・ジャータカに特徴的な、「内施」（自分自身（および妻子）の布施を指して用いられ、残酷な捨身を時にモチーフとする）という概念および、それをを行う動機（声聞や独覚の悟りを求めるのではなく、一切智を求めるのだ、というボーディサッタの宣言がいろいろな物語で反復される）に関するものであるが、上記学会のジャータカ研究パネルの諸成果が収められるイギリスの *Buddhist Studies Review* の次号特集号に掲載される予定である。

同年 8 月から 9 月には再びオックスフォードに渡った。それまでには、上記装飾写本の美術面を中心とした研究書を出版する我々の計画がボドリアン図書館に採択され、2013 年春の出版を目指して、*Unfolding the Life of the Buddha: An Illustrated Manuscript from 18th Century Siam* と題する著書（アップルトン研究員およびサラ・ショウオックスフォード大学講師と共著）をまとめることが決まっていたので、そのための共同研究を推進した。上記著書も本プロジェクトの成果である。（本プロジェクト採択期間中に行った研究は本科学研究費補助金による。次年度に出費が予定される出版費自体は鹿島美術財団より平成 23 年度の美術書出版に関する助成を受けている。）

上記の研究書出版に関する写本挿絵の読み解きに関して、さらにタイにおける壁画および文献の調査が必要なことがわかってきたので、再び 12 月にはタイに赴いた。ワット・ラジャシッタラム寺院を含むトンブリ地区の多くの寺院を調査したが、この成果は全

て上記の著書に盛り込んでいる。また、この滞在では、再びフランス極東学院のピーター・スキリング博士の研究指導を受ける機会を得た。

最終年度の残りの期間は、それまでに行ったパンニャーサ・ジャータカ研究に基づき、テキスト作成（厳密な校訂をするのではなく、なるべく写本の読みを提示しつつ、読みの提案を行う方針を採った）と翻訳とを進めた。

これらの研究成果は、著書・雑誌などで公表する分を除いて、研究成果報告『タイ国ワット・ラジャシッタラム寺院他所蔵写本に基づく蔵外仏典の研究』として冊子（計 143 頁）にまとめた。この冊子には、パンニャーサ・ジャータカ研究で取り組んだ物語のうち、4 話のテキストと 3 話の翻訳とが含まれている。

なお、『パタマサンボーディ』の方は、特にタイの仏伝図との関係でもっとも重要になってくる舎衛城の神変、三十三天における母への説法、三道宝階降下に関するエピソードの読解を進め、その成果は上記の装飾写本研究書に盛り込んだが、翻訳研究として公表できる段階には至らなかった。

さらに、調査の過程で、以上の研究に関連する他の重要文献の写本について、当初計画通り選定し、中には他研究者に照会、紹介したのものもあるが、本格的な研究に入ることは適わなかった。これらについては今後の課題としておきたい。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 2 件）

Toshiya UNEBE, “Not for the Bliss of a Sāvaka or Paccekabuddha: The Motive behind Bodhisattas’ Self-sacrifice in the *Paññāsa-Jātaka*”, *Buddhist Studies Review*. [In Press]、査読有。

② Toshiya UNEBE, “Two Popular Buddhist Images in Thailand”, in *Proceedings of The International Conference: Buddhist Narrative in Asia and Beyond*, vol.2, ed. by Justin McDaniel and Peter Skilling. [In Press]、査読有。

〔学会発表〕（計 2 件）

① Toshiya UNEBE, “Not for Bliss of Sāvaka, Nor that of Paccekabuddha: The Motive For Bodhisattas’ Self-sacrifice in the *Paññāsa-Jātaka*”, The XVIth Congress of the International Association of Buddhist Studies Dharma Drum Buddhist College, Jinshan, New Taipei City, Taiwan, June 21, 2011.

② Toshiya UNEBE, “Two Popular Buddhist Images in Thailand”, The International Conference: Buddhist Narrative in Asia and Beyond, The Imperial Queen’s Park Hotel, Bangkok, Thailand, August 10, 2010.

〔図書〕（計 3 件）

① Naomi Appleton, Sarah Shaw and Toshiya Unebe, *Unfolding the Life of the Buddha: An Illustrated Manuscript from 18th Century Siam*, Oxford: Bodleian Library Publishing. [In Press]

② 畝部俊也（編著） 2009 年度～2011 年度科学研究費補助金研究成果報告『タイ国ワット・ラジャシッタラム寺院他所蔵写本に基づく蔵外仏典の研究』（計 143 頁）。

③（参考 研究報告一篇を執筆）畝部俊也「越境する仏教写本：オックスフォード大学所蔵タイ装飾写本研究報告」、和田壽弘編、名古屋大学大学院文学研究科公開シンポジウム報告書『マンダラと論理のインド』2011 所収、pp. 61-76。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

畝部 俊也 (TOSHIYA UNEBE)
名古屋大学・文学研究科・准教授
研究者番号：10362211

(2) 研究分担者 該当なし

(3) 連携研究者 該当なし